

①里山での活動



地域の貴重な里山に出かける。どんなところ？なにがある？生き物はある？どうやって行くの？様々な問いが生まれる。

『ホンモノの体験』

土への興味と探究



2025すくわくプログラム実践報告

山の土はどんな土なのか？どろだんごはつくることができるのか？試してみよう。これを混ぜるとくずれにくくなるみたい。試行錯誤を繰り返し、みんなで力を合わせて運んだり…一人でできないことは、みんなだったらできるね。

実のなる木マップ



園庭にある木は何だっけ？と探しに行く。実のなる木マップを見ながら、探しながら、園内も探検。小さいクラスのお友だちにもわかるように、写真付きの看板を立てて、みんなにわかるようにする。

②キノコを調べる



キノコ、あるかな？この前みたキノコと同じかもしれない。友だちに聞いたり、お寺の庭を見に行ったり。子ども同士のやり取りと探究が広がる。「きのこはかせ」が誕生し、〇〇さんに聞いたら教えてくれるよ、と子ども同士で教えあっている

ビオトープの探究



里山にあった池で見つけたエビ。ビオトープにもいるかな？水はどこから出てくるのか、生き物が住むための水はどんな水がいいのか、考える。枯れ葉やごみは取り除いた方がいいのかもしれない、と試す。きれいにすることで生き物が住みやすくなることに気付く。

木の実を調べる



地域の里山と園内の環境を行ったり来たりしながら、体験と実践を繰り返している。その中で、自分の好きなことに分かれ、興味と関心が派生していく。自分だけではなく、友だちと一緒にできる、と実感。次への自信につながっている。いきいきと自信にあふれた言葉で伝えていた。

とうきょうすくわくプログラム ～ホンモノの体験～自然の中でわくわく

活動スケジュール：：2024年6月～2025年3月

【テーマの設定理由】

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
自然環境豊かな園だからこそできる体験や、遊びを日々のいとなみとして実践する。自園以外の地域の環境を存分に生かし、『ホンモノの体験』ができるような体験を取り入れ、こどもたちの探究心を刺激し、遊びを追及していく。

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
里山活動では園バスを利用して、経路や目的地をこどもと話し合いながら決定していく。また、一人一人の興味や関心に合わせて、自らが行先を選ぶことができるような柔軟性を持たせた計画を立てる。日常の遊びや、工夫が実践できるよう、日程や時間にも余裕を持たせる。

【活動の内容】

地域の里山での活動は、前半はクラス単位で活動、後半からは一人一人の興味や関心に合わせて、目的地や、経路を子ども同士が話し合い、子ども自身の考えと思いで決めていく。水から始まり、泥や土の不思議にも気づき、泥団子や器づくり、レンガを創るということに発展し、食べ物を焼き、食べてみたいということを実践。

【活動中の子どもの姿、声、こども同士や保育者との関り】

一人一人の知っていることや、経験したことを自分だけでなく、友だちや大人と共有したり、試してみようとする様子があった。身近な職員だけでなく、地域のかたに聞いたり、教えてもらい、自ら関わろうとする姿が見られた。また困難と思われることにも挑戦し、失敗しても「またやってみよう」と試みる姿があった。

【振り返り】

こどもたちの興味や関心が尽きることなく、園だけでなく、地域や保護者のかたと共有しながら、遊びを見つけていた。どのようにその遊びを継続していけるか、年度で終了するのではなく、どのように継続し、発信をしていくか、工夫と必要性を感じている。

『創る・考える・試す』コーナー設定

2025すくわくプログラム実践報告



紙を使って・・・

身近な素材、紙に触れる。びりびり、くしゃくしゃ、ふわふわ、さらさら、気持ちいいね、あったかいね、ことばがあふれ出る。

紙のリサイクル その2



この紙、捨てちゃう？紙は紙になるんだよ。もう1回紙にしてみよう。もう一度紙に生まれ変わることを知り、水と混ぜて、糊と混ぜて、乾かしてみよう

これ、知ってるよ。紙は紙に生まれ変わるって言ってたよ。知っていることを友だちと共有する。

紙のリサイクル その3



リサイクルした紙でお手紙を書いてみることに。誰に書こうかな？と文字に興味を持つきっかけになる。



お米作り

稲作体験 田んぼの中に入り、田植えをして、育て、秋にはみんなで稲刈り。稲を運ぶお手伝いもする。なんかにおいがする、みどりのとちがうにおいがする。もち米、食べてみたいねという声から、うるち米ともち米、玄米も試食する

食への興味と関心の広がり



お漬物を作ってみよう。何を入れるの？
何で入れるの？いつ食べるの？
苦手な野菜でも、みんなで作ってみんなで食べると食べられるよ。自信にもつながる。



火への探究

収穫したサツマイモを使って焼き芋を作ろう。サツマイモ以外にも「焼くとおいしいもの」探しをする。こども同士でも話し合い、園にいる大人にも聞いてみよう。



おもちつき

日常生活から生まれる興味や関心をとことん追求していく。保育室の一角や、園庭の一部をコーナー設定。知っていることを共有したり、大人たちに聞いてみたり、好きなことをとことん追求している。今度これやってみよう、という期待感もあり、途切れないコーナーが出来上がっていった。こどもたちの発想は途切れない。

とうきょうすくわくプログラム ～『創る・考える・試す』コーナー設定

活動スケジュール：：2024年6月～2025年3月

【テーマの設定理由】

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
園内、外を問わず、目的別保育室で、創って、考えて、試すといった試行錯誤できるコーナーを設定する。遊びこめる環境と、続きを楽しむ時間の確保、大規模園だからこそできる、多様な子どもたち、多様な価値観を大切に、子どもたちの『好き』を探す。

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
目的別の保育室の環境を見直す。

【活動の内容】

特色ある保育室を生かし、「つくるへや」「おとのへや」での年齢を問わず、創って、考えて、試して楽しむ、といった活動を行う。「つくるへや」では試行錯誤できる素材で、様々な遊びこめる環境と、続きを楽しむ時間を確保した。多様な子どもたち、多様な価値観を大切に、子どもたちの『好き』をとことん追求した。

【活動中の子どもの姿、声、こども同士や保育者との関り】

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
年齢を問わず、自分の考えた方法を教えあう様子が見られた。特に年下の子どもの関わりの中で、どうしたら伝わるか、どのように教えたらよいかを考えるきっかけになっていた。試行錯誤でき、様々な遊びこめる環境と、続きを楽しむ時間を確保することで、『好き』を続けていくことができた

【振り返り】

様々な素材からの可能性を発見できた。またこども同士のサークルタイムの充実を図り、子どもの思いや意見を子ども同士で話し合える環境を作ると、より多くの句付きや発見が得られた。職員間での共有から保護者や地域の方との連携も視野に入れるこおって、更なる学びが得られるのではと考えている